

# 国家の輪郭と越境

*The Contours of State and Border-Crossings*

— 『Mother India』を読む PartⅢ —

第3回研究会のお知らせ

参加自由

下記の通り、第3回「国家の輪郭と越境」研究会を開催いたします。

参加自由ですので、ぜひご参加ください。

- 日時 平成 21 年 5 月 26 日（火）15 時～17 時  
\* 新型インフルエンザ流行にともなう諸事情によって変更の可能性があります。  
変更の場合は HP に通知します。
- 場所 大阪大学箕面キャンパス  
<http://www.osaka-u.ac.jp/jp/accessmap.html>  
総合研究棟 6 階「国家の輪郭と越境」プロジェクトルーム
- 研究会題目 『Mother India』を読む
- 趣旨 本研究会では、「地域大国」としてのインド、中国、ロシアがこれまでいかに描かれてきたのかを、多様な資料を精読して、広く検証することを目的とする。一冊目に取り上げた『Mother India』は、アメリカ人著者 Katherine Mayo が英領インド視察後に作成したものであり、Part I から Part V まで全五回の研究会で扱う。第一回研究会の前半部分ではメイヨーのインド視察の概要が説明され、公衆衛生に注目したという彼女の活動内容が紹介された。後半部分では、メイヨーがインドの後進性の最大要因であると繰り返し強調した、インド人が「性的過多」とあるという主張について話し合われた。第二回研究会では、インド女性の存在がいかに軽視されているのか、女兒殺し、寡婦が置かれる困窮状態、女性隔離制度、女子教育の普及率の低さなど、メイヨーの指摘を追った。偏った面のみを強調した作品だと非難されてきた同書であるが、「西洋」「近代」的な視点から描かれたインドイメージを検証する上で、非常に有益なテキストである。第 3 回研究会では、カースト問題に触れながらインドイメージの成立過程と変容を考えたい。
- 使用テキスト Katherine Mayo 著『Mother India』1927 年  
(テキストは配布します)
- 問い合わせ先 科学研究費補助金 新学術領域研究  
「国家の輪郭と越境」プロジェクト事務局  
[dai5han@world-lang.osaka-u.ac.jp](mailto:dai5han@world-lang.osaka-u.ac.jp)